

『クラウド時代における地域医療福祉情報連携ネットワークの構築に向けて』 ワークショップ開催

JISA は首記ワークショップを 2 月 18 日、経団連会館において開催した。医療関係者、自治体関係者、IT ベンダーなど 110 名の参加者があった。

JISA はこのたび、クラウド時代の医療福祉連携ネットワークの実現に向け、小冊子『地域医療福祉情報連携ネットワークシステム導入のすすめ』を作成した。

地域医療福祉情報連携ネットワークシステムは IT を活用し、地域住民への医療福祉サービスの向上をはかり、医療関係者の負担を軽減し、社会保障費の削減を目指すものである。小冊子は既に効果を上げている地域医療福祉情報連携ネットワークシステムの事例紹介、システムの運営主体の立ち上げ方と留意すべき事項、信頼性を担保する技術、情報サービス産業が支援出来ることなどを簡単にまとめている。

本ワークショップはこの小冊子をもとに市町村の枠を超えた広域な地域医療福祉情報連携ネットワークシステムの構築を関係者に働きかけることを目的として開催された。

プログラムは以下の通り。

1. 主催者挨拶：『地域医療福祉情報連携に果たす JISA の役割』

JISA 副会長・企画委員会委員長 島田俊夫

2. 基調講演：『情報連携で地域医療福祉の再生を目指す』

地域医療福祉情報連携協議会会長
東京医科歯科大学教授 田中博

3. 『経済産業省「東北復興医療情報化調査事業」

シームレスな地域連携医療成果』
経済産業省 ヘルスケア産業課長 福島洋

4. 『IT 戦略における医療情報化の検討』

内閣官房情報通信技術担当室参事官 有倉陽司

5. 医療福祉情報連携の事例紹介

(1) 『地域医療連携の”新しい架け橋”

地域医療ネットワークシステム「とねっと」』

埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会会長
加須市長 大橋良一
社会医療法人 JMA 東埼玉総合病院 中野智紀

(2) 『慢性疾患支援システムーマイ健康レコーダー』

NPO 法人慢性疾患診療システム研究会副理事長

山梨大学医学部准教授

柏木賢治

6. 『情報サービス産業からのご提案』

JISA 戦略プロジェクト部会長

磯部悦男

基調講演で田中教授は、崩壊したわが国の地域医療を再生するには医療情報連携しかない、との強いメッセージを発した。柏木准教授は、患者が診療情報を自己閲覧することによって薬の量を減らす効果があることなどを報告した。

大橋市長は、地域医療福祉情報連携ネットワークを成功させるには、住民・患者、医療関係者、行政が共通の理解のもと信頼関係を築きながら進めることの重要性を訴えた。

経済産業省の福島氏はシームレスな地域医療連携の実証実験結果を、また、内閣官房の有倉氏は医療連携における標準的なアーキテクチャの検討が進んでいることなどをそれぞれ報告した。

JISA は、地域医療福祉情報連携ネットワークシステムの構築に向けて、安全で信頼性の高いネットワークシステムを構築・運営し、利用者の安心や医療関係者の負担軽減に貢献しうること、医療情報化人材の育成や専門サービスの提供を行えること、地域包括ケアを実現する多様な事業者が事業に参画できるようコーディネートし、地域医療福祉情報連携の運営・発展に役に立てることなどをアピールした。

また、ワークショップ終了後、会場を移して名刺交換会を開催し参加者の交流を図った。

(尾股)